

## 第13号

発行 加古川市教育委員会  
編集 加古川市文化財審議委員会  
加古川市加古川町北在家  
23の1 TEL (24) 1151

## 「加古川市の 文化財めぐり」発行

加古川の清流に恵まれた本市には、太古の時代からたくさんの人々が生活しておりました。

市内には、これらの人々が残した数多くの文化財があります。

教育委員会では、これらの文化財を家族づれで、また友人たちと、一日のハイキングを楽しみながらたずねていただき、文化財を自分の目で確かめ、文化財の大切なことを理解していくとともに、文化財保護にご協力たまわることを願って、「加古川市の文化財めぐり」を発行いたしました。

この文化財めぐりは、市内の各町毎に分けて、一日のハイキングが楽しめる平均10km程度のコースを設定いたしました。

道順や見学困難などの関係で、この案内書に記載されていないところもありますが、主な遺跡、遺品は殆どコースに組み入れております。

なお、この案内書は社会教育課文化係までお申込いただければ、数量に制限がありますので、すべての人にお渡しすることはできませんが、使用目的によってはお渡しいたしますのでご連絡下さい。

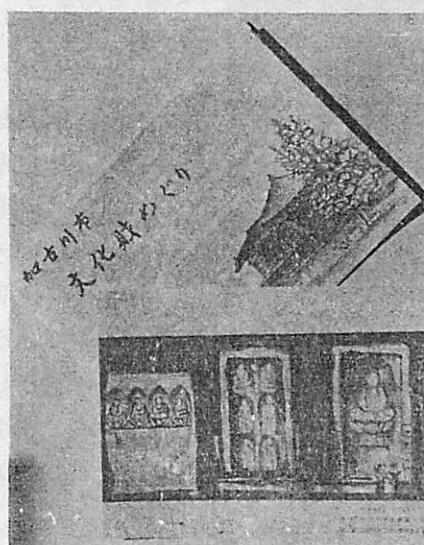
## 「郷土のおはなしとうた」 近く発行

郷土にのこる祖先の生活と歴史の記録でもある民話や伝説、民謡等は、時代の移り変りとともに忘れられようとしています。

これらは、祖先の貴重な心の遺産であり、現在に生きる私たちにも、これら民話や伝説、民

謡等に流れる、暖かい人間味あふれるやさしい心情を受けつぐ赤い血汐が、脈々として流れています。

教育委員会では、郷土にのこるこうした民話や伝説、民謡等を、記録にのこすとともに、市



民の皆さんにも愛読していただき、ふるさとについての認識をより一層深めてもらい、住みよく明るい郷土づくりの一助にしていただくなことを願って、郷土の民話や伝説、民

謡等の冊子の編集発行を進めていましたが、いよいよこのたび、その第一集を「郷土のおはなしとうた」と題して発行することになりました。

現在、印刷中で発行になれば、皆さんにも実費で頒布いたしますのでご期待ください。

なお、第1集に収録したのは旧加古川町、氷丘、神野、別府の各地区につたわるものですが、その他の地区についても収集委員さんにお願いして集を追って発行していく予定です。

この集に収録した以外にも、まだまだ色々なおはなしとうたがあろうと思われますので、お気づきの方がありましたら社会教育課文化係までお知らせいただきますようお願い申し上げます。

## 文化財をたずね12km踏破

— 神野町 —

昭和48年度文化財教室7回目の2月3日、恒例の市内文化財踏査を実施しました。

早朝から雲が多く、途中での雨の心配もありましたが、午前9時、国鉄神野駅に集合した総勢48名の参加者は“加古川市文化財めぐり”



両親と一緒に石仏を前にして、合掌する者、あるいはカメラを向ける人などさまざまな思惑にかられた様子でした。

西条廃寺の礎石が置かれている城山の中腹からの眺めは、加古川の流れとともに望里（まがり）の里が一望できる絶好の場所でした。

その後、城山の頂上に登るのに、上水道の貯水槽工事のため、西側からのアタックを止め、勾配は少し急ではあったが、南側から登ることにしました。鎌倉時代の城跡といわれている城山の頂上に立って四方を見わたせば、印南野が一望でき、当時の人々がいかに自然を生かして城を築いたかがよくわかりました。

この日の最大の難所である城山を後にして、西条山手町内にある2つの石棺を見た後、県指定重要文化財の西条廃寺址へと歩を進めていきました。鉄線で柵がめぐらしてあるのに、小学生2人が中へ入っていたのは残念でした。まだ文化財保護の啓蒙が足らないことを痛感した次第でした。

廃寺址のすぐ南側には、昨年の6月に国指定の史跡となった西条古墳群のうちの1基があり

のパンフレットを片手に、最初の目的地である西条の石仏をめざし出発しました。

約630年以前康永2年の銘がある南北朝時代の石

ます。帆立貝式の県下最大の円墳でしたが、おしくも前方部分が削り取られています。市内最大の古墳行者塚は前方後円墳で、その長さは周溝部分を含めると100mを越す大型古墳です。尼塚も造り出しをもつ円墳では県下でも上位に属する規模をもつもので、この3基の古墳が西条古墳群として国史跡の指定を受けているのです。

次の見学地へ行く途中、地元の人より北神野の墓地の近くに古様の石仏があるということを聞き、調べたところ室町時代の石仏が道のそばに祠られていきました。今日の新しい資料の発見第1号でした。

常光寺裏には南北朝時代の五輪塔がのこされており、墓地には砂岩製で、天正4年と17年、慶長4年と6年の銘がある一石五輪塔が4基並んでいました。

神野小学校での昼食もそこそこに、午後からのコースめざして出発しました。石守では室町時代前期のものでハッタイ地蔵として信仰されている笠塔婆、南北朝時代のものでタグリの地蔵として信仰されている石仏、福沢善証寺墓地の笠塔婆（室町時代）を見学した後、地元の人はからいでコース外の“のろいの松”を見ました。伝説が残る不思議な相生の松を一同は興味深い様子で見上げていました。

水足古墳の石棺や石守古墳を見学したのち、石守廃寺の礎石へと急ぎました。自然石を利用した白鳳時代の寺院の塔の心礎で、じっと見つめていると、1300年前の白鳳の昔がしのばれます。

西之山の大師堂には、康永元年南北朝時代の銘がのこる六地蔵が石棺に刻み込まれて祠られていきました。町内会のご好意により開錠していただき、拝見させてもらいました。

同じ西之山の墓地には、組合せ式石棺の側石2面に仏像が彫ってありました。1面には4体、もう1面には2体の阿弥陀像や地蔵像が彫られていて、墓地の六地蔵として祠られているのでしょうか。どちらも南北朝時代に造られたものです。

次の見学予定地へ移動の途中、地元の方から西之山町内の公会堂の近くにもう1面石仏があることを教えられ、案内していただいたところ、家型石棺の蓋に阿弥陀像が1体彫られた石仏が町内の細い道路端に祠られていきました。これまでの調査でもっていたもので、この日の見学会で新たに発見した資料として貴重なもので、大きな収穫でした。

ついで、天正時代の石守構居址をおとずれたのち、稻根神社裏の二塚古墳へと歩をすすめました。古墳時代後期の横穴式古墳が2基、20m程の距離をおいて並んでいます。

最後の予定地である五ヶ井水路の橋のたもとには、家型石棺の蓋がありましたが、いずれこの附近より出土したものと思われます。

この念佛橋で本日の予定を全部終了したので解散しましたが、2才の幼児から70才を過ぎたおとしよりまで、約12kmのコースを約6時間半かけて25ヶ所の文化財をたずねて歩いたのでした。加古川市文化財めぐりの冊子が完成したのを機会に、みなさんも市内にこされている祖先の文化遺産である文化財をたずねていただく機会をもたれてはいかがでしょうか。



五輪塔の説明に聞きいる参加者

## 雪に埋もれた丹波路の 文化財を訪ねて ——氷上町ほか——

昭和48年度文化財教室8回目の去る2月17日は、数ある県下の文化財のうち、加美町の杉原紙研究所、青垣町高源寺、氷上町達身寺、

## 「文化財映画」一部完成

教育委員会では、市内にこる石造文化財についての映画を、文化財審議委員会の監修のもとに、昭和47年度から3ヶ年事業で6巻の文化財映画に制作しておりますが、このたび、そのうちの3巻が完成しました。

これらの映画は、すべて16%カラー映画で、市内の主な石造文化財を収録しており、石造遺品の見方や名称なども図解入りでわかりやすく説明しています。

この映画フィルムは、市の視聴覚ライブラリーと社会教育課に備え付けて、学校で利用するときは視聴覚ライブラリーのものを、市民の方は社会教育課備え付けのものをご利用いただくよう配慮しておりますので、各団体等でご利用いただく時は、社会教育課文化係（TEL 24-1151内線579）までお申込下さい。

### ※このたび完成した映画

- 『ふるさとの道しるべ』（カラー）  
映写時間25分
- 『野辺の石仏』（カラー）  
映写時間20分
- 『昔を語る五輪塔』（カラー）  
映写時間20分

### ※これまでにつくられた映画

- 刀田山鶴林寺（カラー）映写時間40分
- 鶴林寺『宝物編』（カラー）  
映写時間15分
- 鶴林寺『本堂修理編』（カラー）  
映写時間15分
- 土はもう語らない（白黒）  
映写時間40分

なお、残り3巻は現在制作中で、49年度中に完成いたします。

柏原八幡神社を見学することになりました。

午前8時、マイクロバスで駅前通りを出発した一行は、一路最初の目的地である加美町鳥羽の杉原紙研究所に向かいました。西脇市で国道175号線と別れ、国鉄鍛冶屋線に沿って延びている県道を北へ北へと進んでいきました。左側には雪の冠をいただいた靈峰千ヶ峰がそびえ

たち、右手には篠峰、竜ヶ岳といずれも800メートルを越える山々が連なっていました。

10時少し前に杉原紙研究所に到着し、研究所の職員から、和紙のできる工程の説明を聞いたのち、実際に紙を漉いている様子を見学させていただきました。和紙がどのようにして製造されているのだろうかという疑問も、紙漉きの作業を目のあたりに見て、一度に晴れたのでした。その工程を簡単に説明すると次のようになります。

#### 1. 楠(こうぞ)むし

楠を約1.2m位に切り、蒸通(こしき)に入れ釜で蒸す。2~3時間後に黒皮剥ぎをする。

#### 2. 白皮づくり

黒皮から荒皮部分を取り去り白皮部分だけにする。

#### 3. 楠煮

1~2日間清水に浸して軟らかくし、水をきって煮釜に入れ、これに木灰かソーダー灰を加えて柔らかくなるまで煮る。

#### 4. あく抜き

柔らかくなった白皮を清水に浸し、灰のあくを抜く。同時にチリを十分に取り除く。

#### 5. 叩解 叩解機により繊維を分解する。

#### 6. 紙漉き

叩解機でよくとかした原料を水をはった漉舟の中に入れ、のりを加えて、漉具により一枚一枚漉く。

#### 7. 脱水

漉いた紙は、1晩そのままで、次の日の朝しぶり機にかけて脱水する。

#### 8. 紙干

脱水した紙を1枚ずつ剥ぎ取り、干板に刷毛で張りつけ日当りのよい場所で乾燥させる。天候の悪い日は屋内で乾燥機にかける。

見学の後、完成品の実費頒布をしていただいたので、杉原紙でつくられた色紙その他を各自思い思いに購入し、次の目的地青垣町の高源寺へと向かいました。雪の深い大名草峠をゆっく

り登っていく途中で、橋が工事中のため通行できないことを聞き、急遽コースを変更せざるを得なくなり、高源寺の代わりに石龕寺を訪問することにしました。とりあえず次の訪問先である氷上町の達身寺へと向かいました。この寺は丹波地方で最も早く開創された寺院だといわれています。本堂で住職からこの寺についての講話を拝聴したのち、宝蔵庫を見学させていただきました。平安時代の山嶽仏教の栄えがしのばれる弘仁時代(約1150年前)、貞觀時代(約1100年前)の仏像が多數安置されていました。その大半が国の重要文化財に指定されています。

達身寺を出発して、次の予定地の柏原八幡神社へ車を進めましたが、たまたま柏原八幡神社の厄神祭の宵宮だったので、車が混んで町へ入れず、そのためこの訪問も断念し、石龕寺へと向かいました。

この石龕寺は、用明天皇丁未年(587年)聖德太子の開創と伝えられています。県指定重要文化財の町石が毘沙門堂を起点に25本立ち並んでいました。住職が不在のため本堂へ上がりませんでしたが、春まだ遠い岩屋山を散策し、珍しい広葉杉をも見学しました。解体修理されて、朱塗りの色もあざやかな鎌倉時代の建築になる山門(重要文化財)には、東大寺仁王像に次ぐ鎌倉時代の代表的優秀作といわれている定慶作の仁王像を、風雪から保護するように鉄の扉で閉ざしていました。お寺のご好意により開錠していただき、仁治2年(1241年)の銘がある国指定重要文化財の仁王像(370cm)を見上げたとき、とりもなおさず合掌せざるをえない心境に陥りました。

これでこの日の日程をすべてすませ、石龕寺を後に一路帰途につき、午後5時前に加古川に到着、駅前で解散しました。

雪の深い丹波地方の文化財を訪ねる機会をもつことができたのは、非常に意義あることだと思いました。今後、このような機会をたくさんつくりたいと思っていますので、そのときには多数の方がご参加くださるようおまちいたします。